

秘書学論集

平成7年3月

目次

<論文>

- 秘書と能力開発 — ソフトなアプローチの観点から — ……池内 健治 3
秘書の職務特性に関する実証的研究 — 行動科学的アプローチ — ……大津 洋子 11
-

<報告>

- 中国・宋代の翰林学士 ……中村 健壽 29
日本の企業秘書 — 第三回秘書実態調査から — ……島本みどり 41
-

<研究ノート>

- 秘書実務教育における交流分析の応用
— 対話分析理論に基づく接遇対話の授業展開例 — ……菱田 陽子・野口喜美代 65

No.13 1995

日本秘書学会

今回は、14編と従来になく多数の応募がありました。昨年12月25・26の両日調整会議を行い、事前の審査に加えて更に入念な審査を行っていただきました結果、本論集掲載のように、論文としては、池内健治さんの「秘書と能力開発」と大津洋子さんの「秘書の職務特性に関する実証的研究」の2編、報告として中村健寿さんの「中国・宋代の翰林学士」と島本みどりさんの「日本の企業秘書」の2編、研究ノートとして菱田陽子さん・野口喜美代さんの「秘書実務教育における交流分析の応用」の計5編しか採択に至りませんでした。

応募された方は、長い期間をかけて資料を収集し、暑い時期に執筆いただきましたが残念ながらご期待に添えたのは極くわずかでした。

結果として言えることは、自分では新しい事を発見したとして述べておられても、既に先行の研究があって、言葉はちがっても同じ様なことを述べている事を全く意に介しておられないことです。

調査についても、先行の調査と同じ結果が出たのでは、何のために調査したか判りません。

内容についても、日本のことを述べているかと

思えば、いつの間にかアメリカのことを述べていたり論旨に一貫性がないのがありました。又、新しい試みなので期待して読んでいっても、一番期待していることの経過は省略されて、前後のみ述べてあるものもありました。

上に指摘したようなことを是正していただくのは基本的なことですので、しっかりおさえて執筆して下さい。

今回は調査の応募論文が多かったので、調査について若干述べたいと思います。

調査の論文執筆にあたっては、(1)調査の動機と目的 (2)調査対象 (3)調査時期 (4)調査方法 (5)調査内容等の「調査概要」 (6)調査結果の分析と考察 (7)結論といった具合に手順を踏んでやっていただきたいと思います。

又、同じ学内か近くの大学に調査を何回も手がけた方がおられたら、そういった方から十分アドバイスを受けてとりかかってほしいものです。

以上、今回感じたことを記しました。今後の参考にして下さい。

〔福永弘之記〕

- 編集委員 福永弘之 (委員長)、岡田 聚、佐藤啓子、佐藤東九男、田中篤子、中佐古勇、吉田寛治

秘書学論集
No.13 1995
平成7年3月発行

発行 日本秘書学会 編集委員会
〒004 札幌市豊平区清田4条1丁目4番1号
静修短期大学内
TEL(011)883-2490
制作 (株)アイワード
TEL(011)241-9341(代)

JAPAN
SECRETARIAL SCIENCE REVIEW

No.13

March 1995

Contents

<Articles>

Competence development of secretary

— From the View point of Soft Approach —Kenji IKEUCHI 3

An Empirical Study of Secretarial Work

— Through Behavioral Scientific Approach —Youko OHTSU 11

<Report>

Scholars of Han-Lin in the Song DynastyKenju NAKAMURA 29

The Secretaries in Japanese Companies

— The Secretarial Circumstances the Third, 1994 — ...Midori SHIMAMOTO 41

<Study Notes>

Application of Transactional Analysis in Education of Secretarial Training

— A Case of Dialogue Practicing Plans Based on Transactional Analysis —
.....Yoko HISHIDA, Kimiyo NOGUCHI 65